

「関西広域連合（仮称）」設立準備への会頭コメント

関西広域連合に向けての具体的な計画が示されたことを歓迎したい。地域主権型の分権社会への重要なステップが、全国に先がけて関西から発信されたことを評価したい。

出来るところから着手することによって具体的な変化が見えるようにしていく実践的方法が妥当と考える。実践を積み重ねていく中で産業クラスターを核にした広域経済圏がまず形成されることで、人口が増え、地域が活性化する。例えば、産業・観光振興など府県をまたがる様々な課題の解決に、地域の中小企業のビジネスチャンスが生まれると期待される。行政のあり方については、政治家主導で、その行き着く先で考えればよいと考える。

ぜひ、これからスタートする設立準備においては、広域連合によって行政の運営方法を変えるのみに留まらず、住民にとって何が利点であるのか、わかりやすい情報提供に努め、住民の理解を得るためにしっかりと説明責任を果たす必要がある。

平成20年7月31日
京都商工会議所
会頭 立石義雄